

出穂後高温時における適正な水管理について

宮城県米づくり本部第14号
平成27年8月3日

- 7月31日に仙台管区气象台より「小雨と長期間の高温に関する宮城県気象情報第1号」が発表され、8月14日頃までは気温が高く、降水量の少ない状態が続く見込み、とされています。
 - 本県の水稲は、平年より8日早い7月29日（県全体の平均）に出穂期に達しており、8月3日頃には穂揃期に達するものと思われます。
 - 出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと、稲体の消耗による登熟不良や白未熟粒の発生等により品質の低下が懸念されます。また、出穂後10日間の最高気温が高いほど、胴割粒の発生が多くなる傾向があります。
 - 高温登熟による品質低下を防止するためには「昼間深水・夜間落水管理」が有効ですが、用水の確保が難しい状況においては「走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ水管理」を行うことにより白未熟粒や胴割粒の発生が軽減されます。なお、落水時期は出穂後30日前後としてください。
- ※7月の降水量が少なかったため、ダムの貯水量は平年を下回っています。地域によっては、節水など今後の農業用水の利用に注意が必要となります。

1 小雨と長期間の高温に関する宮城県気象情報第1号

- 宮城県では、7月1日頃から、降水量の少ない状態が続いています。また、7月11日頃から、気温の高い状態が続いています。
- 今後2週間程度は高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温が高く、降水量の少ない状態が続く見込みです。
- 農作物や水の管理、健康管理等に十分に注意してください。

2 気象予報について

気象庁ホームページから最新の気象情報を確認して下さい。

〔宮城県の週間天気予報（8月3日11時）〕

日付	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)
仙台	最高(℃)	33 (35~38)	36 (34~38)	36 (31~37)	34 (26~34)	30 (27~33)	30 (29~33)
	最低(℃)	25 (24~26)	25 (24~26)	25 (23~26)	25 (21~26)	23 (21~26)	23 (22~26)

最低気温・最高気温の欄の括弧内は気温の予測範囲を示しています。
実況の気温がこの範囲に入る確率はおよそ80%です。

3 出穂時期の比較

(7/30現在)

区分	出穂始期(5%)	出穂期(50%)	穂揃期(95%)
本年	7月26日	7月29日	—
前年	7月30日	8月2日	8月8日
平年	8月3日	8月6日	8月12日
平年差	8日早い	8日早い	—

※平年値は平成17~26年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値を用いた。

4 高温時の水管理について ~地域における用水の確保状況を勘案し、適切な水管理を~ 次の(1)または(2)により、本田内の水管理を徹底してください。

(1) 昼間深水・夜間落水管理

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9~10時頃にかん水し、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましい。

(2) 走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理

出穂後の水管理を保水管理で維持することによって、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。